

地震・津波など 防災に強いまちづくりを



吉川義雄 議員

答 町の防災計画を見直す

吉川 地方自治体の何よりも大事な事は地震などの災害から住民の生命と財産を守る事です。これからは防災に強いまちづくりを進めることです。これまで住民の避難場所となる小中学校の耐震強化を訴えてきました。氷川町内には「布田川・日奈久断層」が通っていて、大きな地震が想定されています。そこで、町の防災計画の地震・津波対策、避難場所の地震・津波対策はどうなっているか。

総務財政課長 防災計画を随時改正し、全国瞬時警報システムを導入しました。地震津波対策ですが、震度4の場合は第一警戒態勢、震度5で津波、大津波警報の場合は災害情報連絡本部を設置、震度6以上の場合には災害対策本部を設置対応します。現在の避難場所は水害の避難場所です。津波の想定がわが町一つでは難しいということで、津波に対応する避難所の指定はしてません。

案内・誘導標識の設置計画の実行を

吉川 地震や津波発生時に避難者を収容し、生命身体を保護するために必要な規模及び構造を有する避難場所の整備計画を検討する。また、避難場所の案内標識、誘導標識を設置するとなっているが、実行しているか。また、地区の避難場所は分かるようにすべきでは。

県の計画を受け 防災計画は見直す

総務財政課長 八火図書館整備検討委員会が設置されていますが、私の記憶ではもう十数年検討を続けています。これまで何度も写真が出されてきました。藤本町長は現存する施設について検討をするように求めています。検討委員会ではどのような検討をしているか。

八火図書館の 再建・整備を急いで

町長 ご指摘の通り計画はあるが避難場所の表示は出来ていません。避難場所について確認するものを今持っています。県が見直しを行っています。

吉川 本町の避難場所は標高10m以下だと思います。だから、3階4階建てのビルなど民間の協力を得て災害時にそうした場所が使えるようにすべき。

町長 町内にそういう場所がないならば、近隣市町村にもお願いをしなければならぬが、災害時にどういう形で協定ができるか少し勉強させて頂きたいと思っています。

教育長 把握していません。

吉川 その基準では、図書館の最低規模は蔵書5万冊、床面積は人口6万9000人までは1080㎡、人口1万8100人までは一人につき0.05㎡となっている。八火図書館の床面積は220㎡です。

生涯学習課長 八火図書館は220㎡です。

吉川 いかにか狭いかということですが、かがみ図書館は612㎡、



早急な整備が望まれる八火図書館

竜北公園と立神峡公園 間にバスの運行を



有田芳人 議員

答 自然散策の専用道路

有田 竜北公園が開園して早1年となるが入園状況はどうか。子どもが主となるが、大人も好感をもっておられるが、観光事業としてぜひ入園者も多くしてもらいたい。立神峡は県の指定を受

けているが観光客を呼び込むために滝を造って水を流すことはできないか。また、竜北公園から立神峡公園をつなぐ道路を整備し、ミカン山を越え、こいこい橋、立神峡公園までバスを走らせる考えはないか。

総務振興課長 竜北公園の来園者数はウォーキングセンター管理人が目視で数えています。利用団体の申請時の利用者数、イベント来園者数を加えて、今年4月までの来園者数は4万3000人、団体の利用は57団体、約7100人の来園です。

立神峡公園



有田 立神峡の自然を生かす話をされたが、県と話をしてほしい。バスはどうか考えているか。

町長 上の駐車場を利用した人、散歩の人は含まれていません。

町長 立神峡の自然を生かす話をされたが、県と話をしてほしい。バスはどうか考えているか。

町長 立神峡の自然を生かす話をされたが、県と話をしてほしい。バスはどうか考えているか。

町長 立神峡の自然を生かす話をされたが、県と話をしてほしい。バスはどうか考えているか。

町長 立神峡の自然を生かす話をされたが、県と話をしてほしい。バスはどうか考えているか。

町長 立神峡の自然を生かす話をされたが、県と話をしてほしい。バスはどうか考えているか。



賑わいを見せる道の駅「竜北」